

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	岐阜県
学 校 名	揖斐川町立 大和小学校
学校のホームページアドレス	http://www.town.ibigawa.lg.jp/soshiki/6-9-0-0-0_1.html

1 取組テーマ

食の楽しさや大切さに気付き、よりよい食生活を生み出す子の育成 ～食育の推進による健やかな体づくりをめざして～

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	平成22年	1 人
配置されていない場合の対応状況		

3 推進委員会の構成

【大和小学校スーパー食育スクール推進委員会】		
委員長	常富みどり（元小学校長）	
副委員長	成瀬 徹一（地域生産者）	
委員	服部 秀文（校医）	委員 長尾 孝文（大和小学校長）
委員	棚橋 昭文（地域生産者・獣医）	委員 所 広秋（大和小学校教頭）
委員	久保田浩史（岐阜大学准教授）	委員 高見恵美子（大和小学校研究主任）
委員	土屋 和久（大和小PTA会長）	委員 林 陽子（大和小学校栄養教諭）
委員	後藤美智子（大和小PTA母親委員長）	委員 井深 洋代（大和小学校保健主事）
委員	中川 浩美（県教育委員会課長補佐）	委員 小里 和香（大和小学校養護教諭）
委員	広瀬 満（西濃教育事務所課長補佐）	
委員	所 智子（北方小学校保健主事）	
委員	廣瀬 歩（北和中学校養護教諭）	
委員	中島 勝義（揖斐川町教育委員会主幹）	計 1 8 名

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
岐阜大学	推進委員会でのアドバイス、食育講演会、調査・分析方法の指導
名古屋短期大学	食育講演会
岐阜聖徳学園大学	食育講演会
JA いび川	大豆づくり、豆腐づくり指導
菖蒲谷牧場	食農体験講師
棚橋牛乳	食育授業
太田農園	しいたけ狩り体験講師
生産団体	芋掘り体験講師

5 実践内容

事業目標

食育の実践を通して、児童と家庭の食に関する意識を高め、よりよい食生活ができる実践力を身に付ける。

- ・家族揃って（大人と）朝食を摂る（50% ※）
- ・朝食をバランスよく食べる（40%）
- ・体力、運動能力テスト合計得点（全国平均水準）

※計画当初、共食実施率 56%の実態であるとしていたが、実際は 39%であったため、目標値を変更した。

評価指標

児童の体力・運動能力値の向上

評価方法

生活習慣・食生活アンケート、食育アンケート、健康貯金通帳（※）と体力・運動能力、運動習慣等調査の分析

※健康貯金通帳：生活習慣に関する 5 項目について 3 段階で評価し、それをポイント化し

集計していくもの。例) 朝ごはん 赤・黄・緑全部食べた・・・3 P
2つ食べた・・・2 P
1つ食べた・・・1 P

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

地域での茶摘みや米・野菜の栽培を体験させたり、クッキング体験や食に関する指導、健康づくりに関する指導を充実させたりすることにより、食や健康づくりに関する意識が向上し、体力・運動能力値の好転を目指す。

そのために、食や健康に関する意識調査と体力・運動能力調査結果の相関を明らかにすることによって、食に関する指導や健康づくりに関する取組の効果について検証する

実践内容

○具体的な取組

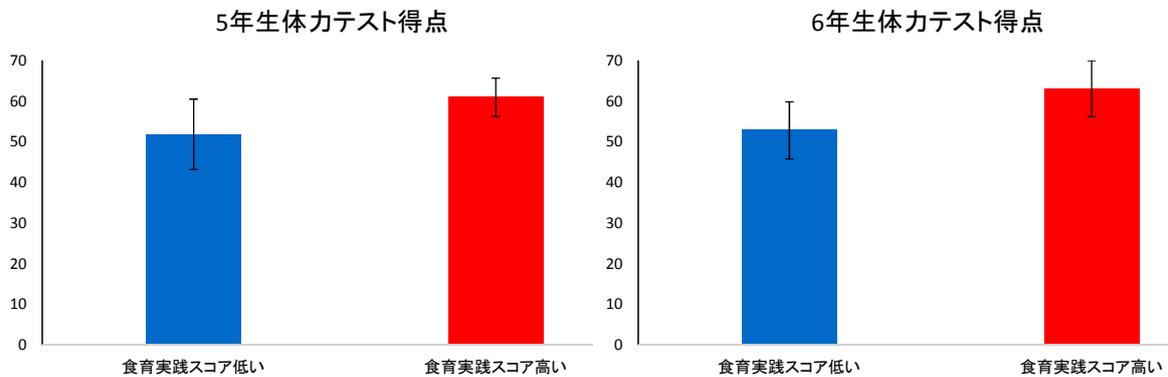
- ・食や生活習慣、健康に関する意識調査を 3 回実施（健康貯金通帳 6 回実施）
- ・体力・運動能力調査を 3 回実施
- ・食に関する授業を 14 回実施（各学年 2 回）
- ・クッキング体験を 10 回実施
- ・農業体験を 7 回実施（各学年 1 回 茶摘み、田植え、稲刈り、野菜栽培、・・・）
- ・食育講演会 3 回実施
- ・クッキングマイスター実施
- ・夏休み・冬休み親子クッキングレポート作成
- ・やまとクッキングレシピ集作成



6 成果

- 第1回の食・生活習慣・健康に関する意識調査と第1回体力・運動能力調査結果との相関を調査したところ、高学年で相関が明らかになり、食や健康に関する意識が高い児童は体力・運動能力が高いことが明らかになった。6年生においては第2回の調査でも同様の結果が得られた。低学年・中学年においても同様の傾向は見られたが、明らかに相関があるとは言えるまでには至っていない。

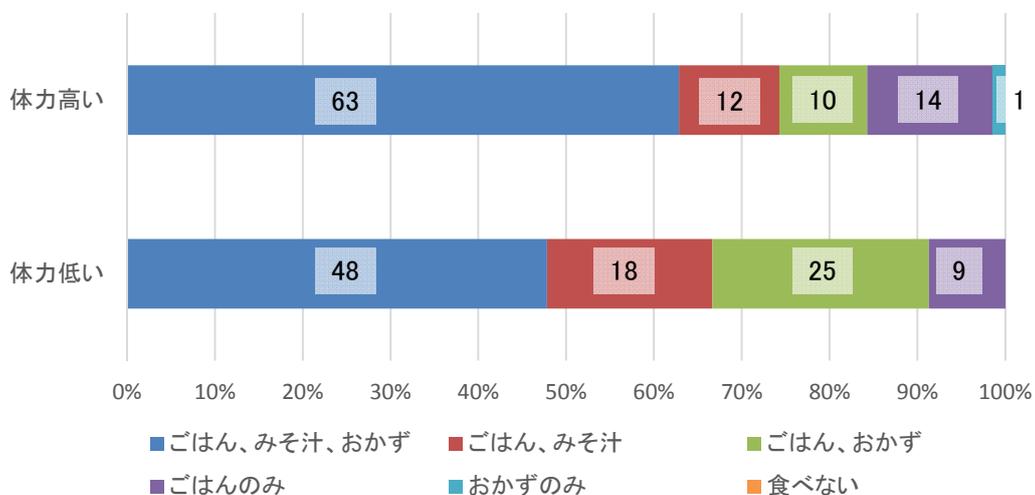
食育実践スコアのお平均をもとに2グループ(食育スコア低群、高群)に分割し、両群の体力テスト得点を比較した場合



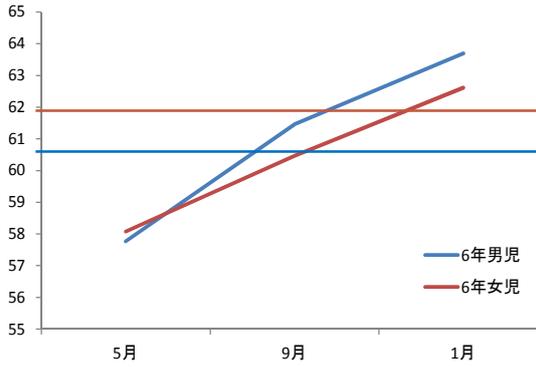
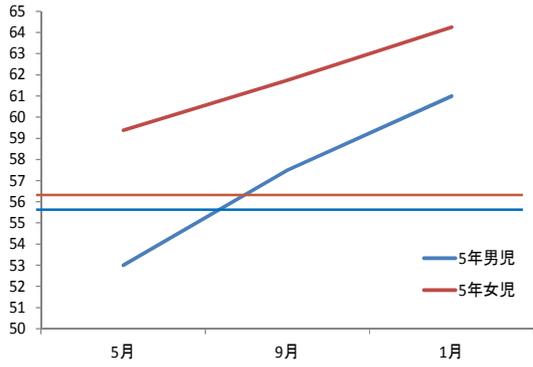
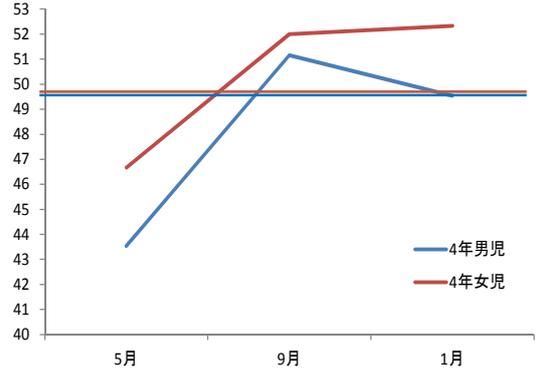
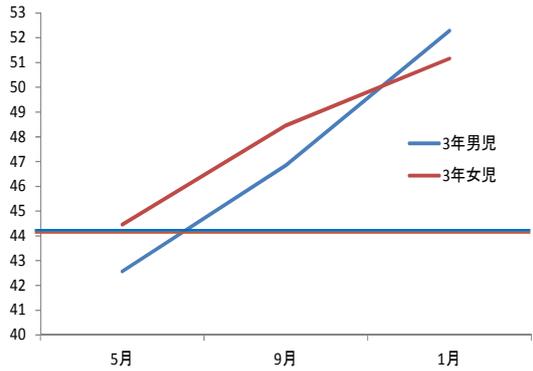
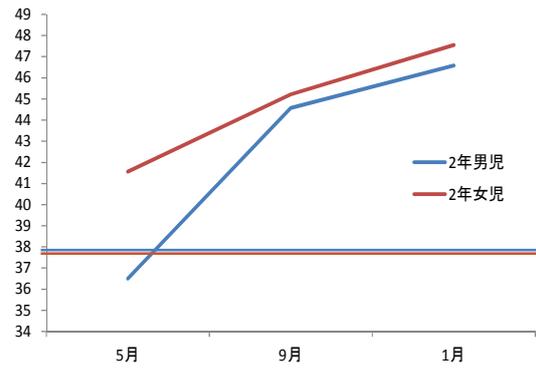
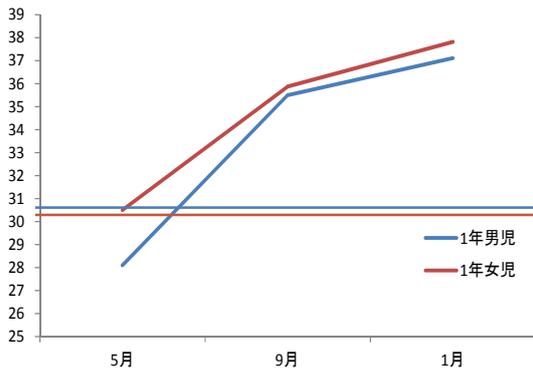
5・6年生において食育実践スコアの高い群が低い群に比べて体力テストの得点が高い(5月)。6年生においては、10月の調査でも同様の結果であった。

- 第3回の食・生活習慣・健康に関する意識調査と第3回体力・運動能力調査結果との相関を調査したところ、ご飯、味噌汁、おかずの3点セットの朝ごはんを食べる人ほど、体力テストの総合得点が高いという結果が得られた。

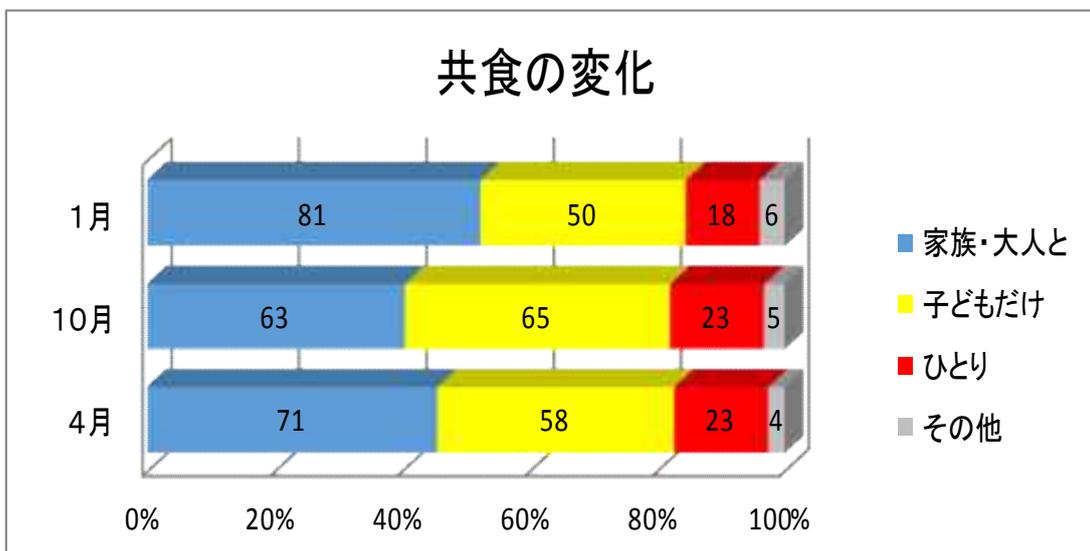
朝ごはん何を食べましたか？(1月)



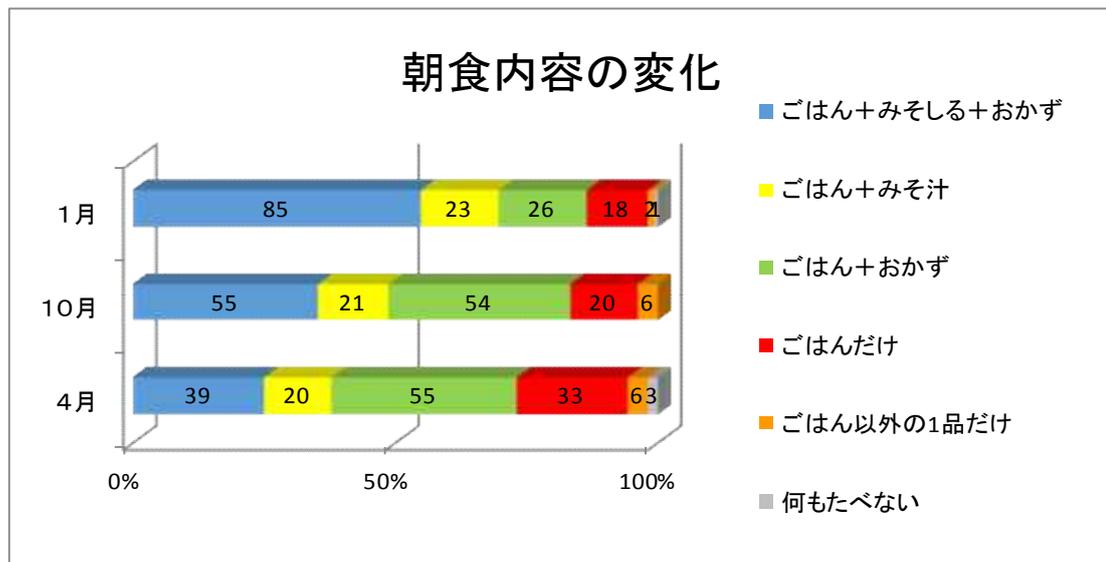
- ・5月の体力テストでは、総合得点が全国水準に達していなかったが、どの学年も3回目の体力テストにおいて全国水準を上回る結果となった。



- ・授業参観後の食育講演会や母親委員会主催の食育講演会を通して、共食の重要性や朝食の大切さを保護者に伝えることで、朝食に汁物が増えたなど、少しずつ保護者の協力を得ることができている。



- ・クッキングマイスターでは、取組表を低学年、中学年、高学年レベルの3段階に分けたことで、学年ごとの目安が分かり、児童が取り組みやすくなった。また、自分で作ることができたことに喜びや楽しさを感じ、積極的に取り組むようになってきた。
- ・健康貯金通帳に朝ごはんの取組を入れることで、保護者の意識が高まり、バランスのよい朝食を食べてくる（赤・黄・緑を意識して、ヨーグルト、野菜を摂っている）児童が増えた。また、就寝時刻や起床時刻の望ましい目安の時刻を設定したため、児童はその時刻を意識して生活するようになってきた。また、冬休みと1月には赤・黄・緑の揃った朝食から「ごはん、おかず、汁物」がそろった朝食にチェック項目を変更したことによって、何を食べると赤・黄・緑の揃ったバランスのよい朝食を摂ることができるかが分かり、保護者も児童も意識して「ごはん、おかず、汁物」を摂るようになった。



7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- 学校のホームページで食に関する授業の様子や体験活動の様子などの取組状況を随時発信している。
- 学校便りにおいて食に関する活動の様子を掲載し、保護者や地域に対してSSSに関する情報を発信している。
- SSS事業公表会 11月19日（水）午後 開催
県内の学校へ取組の成果を公表した。

8 今後の課題

- ・食や運動を含めた健康づくりに関する取組を更に充実させ、児童の体力・運動能力の向上を図る。
- ・家庭との連携を図った食に関する取組（大和クッキングマイスター）や保護者向けの指導（講演会・クッキング体験等）を充実させ、保護者の食に関する意識の向上を図る。
- ・食や運動を含めた健康づくりに関する意識調査のうち、体力・運動能力調査との相関を明らかにする項目を選別し、検証方法の見直しを図る。